

3 普通会計財務書類の分析

(1) 社会資本形成の世代間負担比率

社会資本形成の結果を表す公共資産のうち、純資産又は負債による割合を見ることにより、これまでの世代(過去及び現世代)又は今後の世代によって負担する割合を見ることができます。

- ・社会資本形成の過去及び現世代負担比率(%) = 純資産合計 ÷ 公共資産 × 100
- ・社会資本形成の将来世代負担比率(%) = 地方債残高 ÷ 公共資産 × 100

荒川区の社会資本形成の世代間負担比率は表3-1のとおりです。荒川区では、平成24年度における社会資本形成の過去及び現世代負担比率が100.4%、将来世代負担比率が9.2%となっており、将来世代への負担は比較的低い状況にあります。

<表3-1 社会資本形成の世代間負担比率>

(単位:百万円)

項目	平成23年度	平成24年度
公共資産合計	232,092	232,542
純資産合計	233,384	233,388
地方債残高	20,604	21,284
社会資本形成の過去及び現世代負担比率	100.6%	100.4%
社会資本形成の将来世代負担比率	8.9%	9.2%

(2) 歳入総額対資産比率、歳入総額対純資産比率

歳入総額に対する資産の比率を算定することにより、資産の形成に何年分の歳入が充当されたかを見ることができます。また、歳入総額に対する純資産の比率を計算することにより、これまでの世代による社会資本の形成が何年分の歳入に相当するかが分かります。

- ・歳入総額対資産比率 = 資産合計 ÷ 歳入総額
- ・歳入総額対純資産比率 = 純資産合計 ÷ 歳入総額

＜表3-2 歳入総額対資産比率＞

項目	(単位:百万円)	
	平成23年度	平成24年度
資産合計	268,706	268,681
純資産合計	233,384	233,388
歳入総額	88,788	84,875
歳入総額対資産比率	3.0年	3.2年
歳入総額対純資産比率	2.6年	2.8年

一般的に、この指標の数値が高いほど社会資本の整備が進んでいるといわれていますが、反対に資産の維持管理に多額の経費が必要になります。歳入総額対資産比率の平均的な値は3.0年～7.0年といわれており、荒川区は3.2年と比較的低い水準にあるといえます。

(3) 資産老朽化比率

有形固定資産のうち、土地以外の償却資産の取得価額に対する減価償却累計額の割合を計算することにより、耐用年数に比して償却資産の取得からどの程度経過しているかを把握することができます。資産老朽化比率の平均的な値は35%～50%といわれており、荒川区は43.6%と平均的な値となっています。

$$\text{資産老朽化比率} = \text{減価償却累計額} \div \text{償却資産取得価額} \times 100$$

＜表3-3 資産老朽化比率＞

行政分野	(単位:百万円)		
	償却資産 取得価額	減価償却 累計額	資産老朽化 比率
① 生活インフラ・国土保全	68,447	27,336	39.9%
② 教育	82,082	29,303	35.7%
③ 福祉	27,471	15,662	57.0%
④ 子育て支援	4,536	1,874	41.3%
⑤ 保健衛生	107	30	28.0%
⑥ 環境清掃	3,868	2,586	66.9%
⑦ 産業振興	237	135	57.0%
⑧ その他	20,362	13,398	65.8%
合計	207,111	90,323	43.6%

(4) 区民一人当たりの貸借対照表

貸借対照表を他団体と比較する際、貸借対照表の数値をそのまま利用すると、団体の人口規模等の違いにより比較が困難ですが、貸借対照表の数値を区民一人当たりに換算すると、比較が可能になります。

＜表3-4 区民一人当たりの貸借対照表＞

(単位:千円)

【資産の部】	平成23年度	平成24年度	増減	【負債の部】	平成23年度	平成24年度	増減
1. 公共資産	1,127	1,125	△ 2	1. 固定負債	148	147	△ 0
(1) 有形固定資産	1,074	1,072	△ 2	(1) 地方債	89	93	4
(2) 売却可能資産	53	52	△ 1	(2) 退職手当引当金	59	55	△ 4
2. 投資等	104	92	△ 12	(3) その他	0	0	0
(1) 投資及び出資金	28	26	△ 2	2. 流動負債	24	23	△ 0
(2) 貸付金	11	10	△ 1	(1) 翌年度償還予定地方債	11	10	△ 1
(3) 基金等	60	51	△ 9	(2) その他	12	13	0
(4) 長期延滞債権	7	7	△ 0	負債合計	172	171	△ 1
(5) 回収不能見込額	△ 2	△ 2	0				
3. 流動資産	74	82	9	【純資産の部】			
(1) 資金	72	81	9				
(2) 未収金	3	2	△ 0	純資産合計	1,133	1,129	△ 4
(3) 回収不能見込額	△ 1	△ 1	0				
資産合計	1,305	1,300	△ 5	負債及び純資産合計	1,305	1,300	△ 5

※ 平成23年度の人口は平成24年4月1日現在の外国人登録を含む人口205,947人を、平成24年度の人口は平成25年4月1日現在の同人口206,749人をそれぞれ用いています。

平成24年度の荒川区の区民一人当たりの貸借対照表によると、区民一人当たりの資産は、130万円、区民一人当たりの負債は17万円です。

(5) 行政コスト対公共資産比率

行政コストの公共資産に対する比率を見ることで、資産を活用するためにどれだけのコストがかけられているか、あるいはどれだけの資産でどれだけのサービスを提供しているか(資産が効率的に活用されているか)を分析することができます。

$$\text{行政コスト対公共資産比率(\%)} = \text{経常行政コスト} \div \text{公共資産} \times 100$$

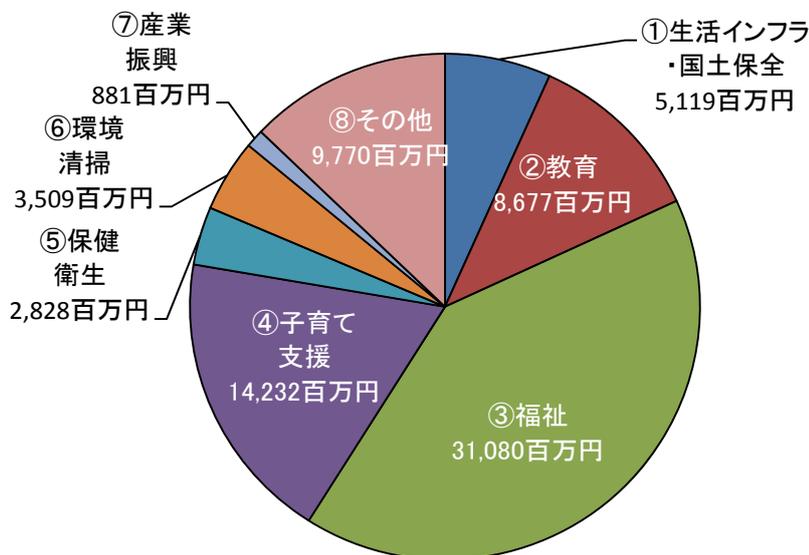
<表3-5 行政コスト対公共資産比率>

(単位:百万円)

	①生活インフラ・国土保全	②教育	③福祉	④子育て支援	⑤保健衛生	⑥環境清掃	⑦産業振興	⑧その他
経常行政コスト計	5,119	8,677	31,080	14,232	2,828	3,509	881	9,770
公共資産計	101,514	73,579	22,242	5,106	78	2,306	1,523	15,350
行政コスト対公共資産比率	5.0%	11.8%	139.7%	278.7%	3625.6%	152.2%	57.8%	63.6%

※ 「保健衛生」の行政コスト対公共資産比率が高くなっているのは、「保健衛生」としての施設の整備等が少ないためです。

【行政分野別経常行政コスト】



(6) 受益者負担比率

行政コスト計算書における経常収益は、使用料等の受益者負担の金額であるため、経常収益の行政コストに対する割合を算定することで、受益者負担比率を算定することができます。

$$\text{受益者負担比率(\%)} = \text{経常収益} \div \text{経常行政コスト} \times 100$$

荒川区の平成24年度受益者負担率は4.7%となっており、相当の部分が受益者負担以外の税金等で賄われていることが分かります。

<表3-6 受益者負担比率>

(単位:百万円)

	①生活インフラ・国土保全	②教育	③福祉	④子育て支援	⑤保健衛生	⑥環境清掃	⑦産業振興	⑧その他
経常収益計	565	73	84	826	718	165	0	1,127
経常行政コスト計	5,119	8,677	31,080	14,232	2,828	3,509	881	9,770
受益者負担比率	11.0%	0.8%	0.3%	5.8%	25.4%	4.7%	0.0%	11.5%

(7) 区民一人当たりの行政コスト

区民一人当たりの行政コスト計算書を作成することで、他団体と比較できるようになります。

<表3-7 区民一人当たりの行政コスト計算書>

(単位:千円)

	平成23年度		平成24年度		増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
【経常行政コスト】	372	100.0%	368	100.0%	△ 4	
1.人にかかるコスト	79	22.1%	76	21.2%	△ 3	△1.4%
(1)人件費	70	19.6%	67	18.7%	△ 2	△1.3%
(2)退職手当引当金繰入	5	1.4%	5	1.4%	△ 0	△0.0%
(3)賞与引当金繰入額	4	1.1%	4	1.0%	△ 0	△0.1%
2.物にかかるコスト	85	23.6%	88	22.8%	3	0.2%
(1)物件費	60	16.6%	62	16.1%	2	0.2%
(2)維持補修費	2	0.5%	2	0.4%	△ 0	△0.1%
(3)減価償却費	23	6.4%	24	6.2%	1	0.2%
3.移転支的コスト	206	53.2%	202	55.4%	△ 4	1.6%
(1)社会保障給付	126	33.7%	130	33.9%	3	1.5%
(2)補助金等	23	6.3%	23	6.0%	1	0.0%
(3)他会計への支出額	42	11.7%	40	11.3%	△ 2	△0.9%
(4)公共資産整備補助金等	15	1.5%	9	4.1%	△ 6	1.0%
4.その他のコスト	3	1.1%	2	0.7%	△ 0	△0.4%
(1)公債費(利払)	2	0.6%	2	0.5%	△ 0	△0.1%
(2)回収不能見込額	1	0.5%	1	0.2%	0	△0.3%
【経常収益】	15	4.0%	17	3.9%	2	△0.1%
使用料・手数料等	10	2.6%	11	2.8%	0	0.3%
分担金・負担金・寄付金	5	1.4%	6	1.4%	1	0.3%
【純経常行政コスト】					0	
(経常行政コスト-経常収益)	357	92.6%	351	95.8%	△ 6	2.7%

※ 平成 23 年度の人口は平成 24 年4月1日現在の外国人登録を含む人口 205,947 人を、平成 24 年度の人口は平成 25 年4月1日現在の同人口 206,749 人をそれぞれ用いています。

平成 24 年度の荒川区の区民一人当たりの行政コスト計算書によると、1年間に区民一人当たり 35 万 1 千円の純経常行政コストがかかっています。